

# 日琉諸語の手法を表す 指示語の形成

Salvatore CARLINO

大東文化大学

# 用語の整理

- 本発表は発表者が研究対象としている手法、程度、質の指示語の研究の一環である。
- 本発表で言う「手法指示語」は先行研究で「指示副詞」「様態副詞」などと言われるものに当たる
- 手法、程度、質の指示語(Manner, Degree and Quality =MDQ, König, Umbach 2018)とは、意味上のカテゴリーとして、動作などの手法、程度、質を示し、さまざまな品詞にまたがる。
- 例えば、日本語標準語では、手法を示す指示語「こう」、「そう」、「ああ」は副詞として振る舞う一方で、質を示す「こんな」は連体詞として機能する
- 同じ機能を持つものが形容詞や動詞として機能する地域があるため、意味に基づいた分類を採用する。

- 例えば、主に名詞を修飾し、質、程度、あるいは両方を表す、標準語の「こんな」、沖縄語伊平屋方言のuntunuは連体詞だが、福岡柳川方言(松岡2024)のkenka/kogenkaは屈折形容詞として現れる。
- また、青森南部方言(Nakagawa 2022)では「手法」を示す指示語は動詞である。

		近称	中称	遠称	品詞
日本語標準語	手法	koo	soo	aa	副詞
	質	konna	sonna	anna	連体詞
青森南部(Nakagawa2022)	手法	kesu	sesu	esu	動詞
福岡柳川(松岡2024)	手法	ken/ kogen	sen/sogen	agen	副詞
	程度・質	kenka/ kogenka	senka/ sogenka	agenka	形容詞
沖縄語伊平屋 (発表者データ、以下同様)	手法	untu/untee		antu/antee	副詞
	質	untunu		antunu	連体詞

# なぜMDQの研究を

- 全体的に世界の言語の研究においてMDQ指示語の研究が遅れていることが指摘されている (König, Umbach 2018)。
- 標準語を除く日琉諸語の記述研究でも、MDQ指示語の記述が詳しく行われていないことも多い。
- 日琉諸語の指示語の研究そのものは進んでいるが、ほとんどの場合指示代名詞、指示場所代名詞、指示連体詞)だけが注目され、手法・程度・質の指示語に着目した研究は進んでいない。

- 先行研究として、歴史的な観点から中央語の指示副詞に関する岡崎(2010など) がある
- 日琉諸語MDQ指示語に特化した研究として、発表者の報告 (Carlino 2025, Carlino 2026予定)
- 今後記述する必要がある
- 今日の発表では、特に琉球に着目して、歴史的観点からその形成について現地調査・文献調査の結果の初期報告を行う

# 日琉諸語の手法指示語

# 日琉諸語の手法指示語

- 日琉諸語の指示語で、指示代名詞を中心に、共時的・通時的研究が盛んに行われてきた
- しかし、手法指示語（を含むMDQ指示語）は、形式上他の他の指示語と非常に異なる場合があり、形成過程を経たと見られる
- まず本土方言で見られる形式の例を概観し、次に琉球諸語の例を見る

# 日琉諸語の手法指示語一本土方言

- 現代本土日本語諸方言では、「こう・そう・ああ」のように、他の指示語と同様に3項対立が広く見られる。共通の指示語根に基づく体系が形成されている。

	指示代名詞	手法	
日本語標準語	<b>kore</b>	<b>ko</b> o	近称
	<b>so</b> re	<b>so</b> o	中称
	<b>a</b> re	<b>a</b> a	遠称
富山県富山市方言(小西2016)	<b>kore</b>	<b>ko</b> o/ <b>ko</b> i	近称
	<b>so</b> re	<b>so</b> o/ <b>so</b> i	中称
	<b>a</b> re	<b>a</b> a/ <b>a</b> i	遠称
大阪方言(増井2018)	<b>kore</b>	<b>ko</b> nai	近称
	<b>so</b> re	<b>so</b> nai	中称
	<b>a</b> re	<b>a</b> nai	遠称
宮崎県椎葉方言(Shimoji, Hirose 2022)	<b>kore</b>	<b>ko</b> gyaa	近称
	<b>so</b> re	<b>so</b> gyaa	中称
	<b>a</b> re	<b>a</b> gyaa	遠称

# 日琉諸語の手法指示語一本土方言

- 指示接辞と比較して、指示代名詞よりバリエーションが多く見られる

	指示代名詞	手法	
日本語標準語	kore	koo	近称
	sore	soo	中称
	are	aa	遠称
富山県富山市方言(小西2016)	kore	koo/koi	近称
	sore	soo/soi	中称
	are	aa/ai	遠称
大阪方言(増井2018)	kore	konai	近称
	sore	sonai	中称
	are	anai	遠称
宮崎県椎葉方言(Shimoji, Hirose 2022)	kore	kogyaa	近称
	sore	sogyaa	中称
	are	agyaa	遠称

# 日琉諸語の手法指示語一本土方言

- 同じ3項対立でも、他の指示語から離れた形式になってきているものもある。

	指示代名詞	手法	
日本語標準語	<b>kore</b>	<b>koo</b>	近称
	<b>sore</b>	<b>soo</b>	中称
	<b>are</b>	<b>aa</b>	遠称
青森南部 (Nakagawa 2022)	<b>kore</b>	<b>kesu</b>	近称
	<b>sore</b>	<b>sesu</b>	中称
	<b>are</b>	<b>esu</b>	遠称
福岡柳川方言 (松岡2024)	<b>kore</b>	<b>ken</b>	近称
	<b>sore</b>	<b>sen</b>	中称
	<b>are</b>	<b>agen</b>	遠称

# 日琉諸語の手法指示語—本土方言

- こうして、本土方言でバリエーションが見られる
- それぞれの形式のパターンの形成過程を分析する必要があるが、今後の課題とし、次に琉球諸語で見られるパターンを概観する。
- 琉球諸語では3項対立という指示語体系を持つ言語と、2項対立を示す指示語体系が見られる。
- 指示語体系全体が3項対立であっても、手法指示語のみが2項対立となる場合が多い
  - 本土で中央語もこのようなパターンだった
- さらに他の指示語とは異なる語根が用いられている。

# 日琉諸語の手法指示語－琉球諸語

- 例えば、沖縄語首里方言では指示代名詞として kuri、uri、ari 「これ・それ・あれ」に対し、手法指示語として kan / an 「こう・そう／ああ」が対応する（中称の位置づけ、範囲の判断が難しいので、深入りしない）。
- 同じく沖縄語金武方言で kuri/uri/ari に kaa/aa が対応する。
- つまり指示語根レベルでは ku-, u-, a- に ka-, a- という体系が成立している。

	指示代名詞	手法	
沖縄語首里方言	kuri	kan	近称
	uri	an	中称
	ari		遠称
沖縄語金武方言 (Tamamoto 2022)	kuri	kaa	近称
	uri	aa	中称
	ari		遠称

# 日琉諸語の手法指示語－琉球諸語

- 似た体系は琉球諸語南北にもかかわらず広く見られ、例えば宮古語久松方言では、ku-, u-, ka-という体系に、手法指示語ではka-, a-という体系が対応する。
- 南琉球で遠称としてka-が使用されるのに対し、手法指示語ではa-が使用されることが興味深い。

	指示代名詞	手法	
宮古語久松方言 (カルリノ・藤田ラウンド2025)	kuri	kansii	近称
	uri	ansii	中称
	kari		遠称
八重山語鳩間方言(加治工、中川2020)	kuri	kaini	近称
	uri	aini	中称
	kari		遠称

# 複合形式

- 地域によって基本的な形式の他に（例えばkan）、-siiやtɕiiなどが接続している形式も見られる（例えば宮古語久松方言:kansii）。
- 記述によって-siiなどを取っただけの形式だけがあったりするが、それを除いた形式が存在しないからなのか、調査で現れなかったただけなのか、不明な場合がある。

# 日琉諸語の手法指示語－琉球諸語

- しかし、沖縄語伊平屋方言のように、他の指示語と共通の指示語根、そして同じ対立の数の場合もある
- 伊平屋方言では指示代名詞のuri/ari「これ・それ/あれ」に、untu/antu「こう・そう/ああ)のように、同語根の手法指示語が対応し、ka-という語根が見られない。

	指示代名詞	手法	
沖縄語伊平屋方言	uri	untu	近称
			中称
	ari	antu	遠称

# 日琉諸語の手法指示語－琉球諸語

- 奄美語では2つのパターンが見られる。
- 1)他の地域と同じka-,a由来のものからなる体系
- 2) ka-,a-に加えて、中称を表す指示語という3項対立体系

	指示代名詞	手法	
喜界島 (内間1978)	furi	haji	近称
	uri	aji	中称
	ari		遠称
	指示代名詞	手法	
奄美語沖永良部方言 (横山2018)	kuri	kan	近称
	uri	gan	中称
	ari	agan	遠称

- 一部だけであるが、日琉諸語の手法指示語で見られる様々なパターンを見てきた。
- 次に、琉球を中心に、これらのパターンのバリエーションの由来・形成過程について考察する

# 手法指示語の由来

# 中央語の手法指示語

- 本土諸方言では現在全体的に 3 項対立が見られるが、手法指示語が 2 項対立、他の指示語が 3 項対立という時代があったということは文献からわかる
- 例えば中古語では以下の体系があった

	指示代名詞	手法
中古語（岡崎2010）	kore	kaku(kau), kayauni, kabakari など
	sore	sa(sika), sayauni, sabakari など
	kare	

# 中央語の手法指示語

- この2項対立という体系のものは、カ系列とサ系列と呼ばれている
- kakuは上代語から見られる一方で、saは中古から見られるようになる。

	指示代名詞	手法
中古語（岡崎2010）	kore	kaku(kau), kayauni, kabakariなど
	sore	sa(sika), sayauni, sabakariなど
	kare	

# 中央語の手法指示語

- 現代語のkoo,sooはこのカ系列、サ系列に由来し、kaku>kau>koo, sa>sau>sooという変化を経て現代の形式になり、aaは独自に発達し、近世にならないと現れない（岡崎2010）。
- 中央語におけるこのカ列、サ列の歴史と発展について本発表で詳しく議論しない
- 今からの議論のために重要なのは、上代語でkaが独立した形式として現れ、コピュラ由来のn-iをとり、kani(ka=n-i)という形式で現れることである(Vovin 2020)。

## 琉球で見られるka(ni)

- kaniという形式、あるいは非常に近いものは、現代沖縄語の一部の地域で確認されている
- 例えば、沖縄語宜野座村方言でkaniがそのまま使用されており(ファンデルルベ2019)、伊江島方言でもこれに由来すると考えられるhaniという形式が見られる(生塩1991)

## 琉球で見られるka(ni)

- この形式は1711に編纂された『混効験集』で「かにある」という形で、「ある」との組み合わせで見られている（外間2002）。
- 混効験集は和文で説明されており、「かにある」について「角ある云心カ 斯有事也 天啓船彙とおもろ御双紙に見えたり」という説明がある
- 天啓船彙と = 1611~年ごろのおもろさうし

# おもろさうしで見られるkani

- 実際の例を見てみよう
- 以下の例はおもろさうしの第一巻目「きこゑ大きみかおもろ 首里王府の御さうし」にあり、1531年ごろのもの（波照間2022から）。

1-21 あおえりへやが ふし

きこえ大きみぎや しまうちどみ おしうけて て、よりみどる

**か**にある（略）

「聞得大君が島討ち富船を推し浮かべてカグラの手折り富船こそが斯くあるのだ」

島討ち富、手折り富 = 船名

# おもろさうしで見られるkani

- 後の例として以下がある。

あかいんこがふねたて節

8-470

—あかのこが てだは／**かに** あれはと／おはたは よりゆる／  
又ねはのこが てだは

「あかの子が太陽なる御方様は**このように**あればこそお側の者たちは立ち寄るのです（繰り返し）ねはの子が太陽なる御方は」

# おもろさうしで見られるkani

- kani以外の手法指示語と思われるものは見当たらない
- 中央語で見られるサ系列も見られない
- おもろさうしで使われている言語では、他の指示語で3項対立が見られる

	指示代名詞	手法	
おもろ語 (?)	kuri	kani	近称
	uri		中称
	kari		遠称

# kan(i)の由来

- kani（と、関係する形式）の由来の可能性として
  - 1)祖語の段階からkaが存在していた。
  - 2)kaniはそのまま本土方言との接触で導入され、そこから保持されたり、今存在する様々な形式に変化した
- 2)が正解だったら、kaniから広く見られるkan,kaiという形式に変化してきたことが簡単に想像できる
- 遠称のa-はどうだろう。
- 北琉球に他の指示語でa-が遠称として定着した後に類推変化として生まれた可能性があると考えられる
- このanはその後南琉球にも普及した（あるいは、kaniが導入された後で独自に形成された）

# kaniのない方言

- 伊平屋のように、kaに由来しないものは、独自に生まれた可能性が考えられる

## 対立の増加？ 奄美の例

- 奄美では2項対立のものが見られる地域もあれば、3項対立を示す地域もあると前述した。

	指示代名詞	手法	
奄美語沖永良部方言 (横山2018)	kuri	kan	近称
	uri	gan	中称
	ari	agan	遠称

## 対立の増加？ 奄美の例

- 中称は、奄美湯湾方言や沖永良部みたいにga-という形式を持つ方言と、徳之島伊仙みたいにuga-という形式を持つ方言が見られる

	指示代名詞	手法	
奄美語沖永良部方言 (横山2018)	kuri	kan	近称
	uri	gan	中称
	ari	agan	遠称
奄美語徳之島伊仙(平山 1968)	kuri	kasi	近称
	uri	ugasi	中称
	ari	agasi	遠称

## 対立の増加？ 奄美の例

- 中称の手法指示語は後から中称の指示語根から形成され、一部の方言でuが削除され、見た目上に異なる形式になってきたのであろう。

	指示代名詞	手法	
奄美語沖永良部方言 (横山2018)	kuri	kan	近称
	uri	gan	中称
	ari	agan	遠称
奄美語徳之島伊仙(平山 1968)	kuri	kasi	近称
	uri	ugasi	中称
	ari	agasi	遠称

## 対立の増加？奄美の例

- 途中で現れるgaについて、九州で見られる形式に似ており、その関係性について考える必要がある。

	指示代名詞	手法	
奄美語沖永良部方言 (横山2018)	kuri	kan	近称
	uri	gan	中称
	ari	agan	遠称
奄美語徳之島伊仙(平山 1968)	kuri	kasi	近称
	uri	ugasi	中称
	ari	agasi	遠称

## おわりに

- 本発表では琉球を中心に、手法を表す指示語の形成過程について考察した。
- 課題が多く残っているが、データが足りないので、情報共有をお願いします！

# 参考文献

- Carlino Salvatore(2019)「北琉球沖縄語伊平屋方言の文法」一橋大学博士論文.
- カルリノ サルバトーレ・藤田ラウンド幸世(2025)「南琉球宮古語久松方言の人称代名詞・指示語・疑問語一久貝地区を例として」『第42号(2025年) 創設40周年記念号』
- 名桜大学琉球文学大系編集刊行委員会、波照間永吉、(2022)『琉球文学大系 1 おもろさうし』 (上) 1
- 平山輝男, 大島一郎, 中本正智 (1968) 『琉球方言の総合的研究』 明治書院
- 松岡葵(2024)『福岡県柳川市方言の記述研究』 博士論文、九州大学.
- van der Lubbe, Gijs (2020)「沖縄語宜野座惣慶方言の代名詞・指示詞・疑問詞」『琉球の方言』 44, 15-34.
- 橋本四郎(1982)「指示語の史的展開」『講座日本語学2 文法史』 明治書院、pp.217-240.
- 外間守善(2002)『おもろ語辞書一沖縄の古辞書混効験集』 沖縄学研究所
- 加治工真市(著)・中川奈津子(編)(2020)『鳩間方言辞典』 国立国語研究所

# 参考文献

König, Ekkehard & Umbach, Carla “Demonstratives of Manner, Degree and Quality” (2018) in Coniglio, Marco Murphy, Andrew; Schachter Eva, Veenstra Tonjes eds. *Atypical demonstratives*. 285-329, De Gruyter.

小西いずみ(2016)『富山県富山市方言の文法』ひつじ書房

増井金典(2019)『関西ことば辞典』ミネルヴァ書房

Nakagawa, Natsuko (2022) "Nanbu (Aomori, Eastern Japanese)" in Michinori Shimoji ed. *An Introduction to the Japonic Languages: grammatical sketches of Japanese dialects and Ryukyuan languages*, Brill.

岡崎友子(2002)「指示副詞の歴史的変化について—サ系列・ソ系を中

心に—」『国語学』53(2)1-17

岡崎友子(2007)「中古における指示副詞の用法と変化について」『就実語文』,2(28), 74-94

内間直仁 (1978) 「喜界島志戸桶方言の文法」『琉球の方言』4: 65-126.

Shimoji Michinori, Hirosawa Naoyuki (2022) "Shiiba (Miyazaki, Kyūshū Japanese)" in Michinori Shimoji (ed) *An Introduction to the Japonic Languages*, Brill. 293-329

Tamamoto Koji "Kin (Okinawa, Northern Ryukyuan)" in Michinori Shimoji (ed) *An Introduction to the Japonic Languages*, Brill.

生塩睦子(1991)「沖縄伊江島の代名詞」『広島経済大学研究論集』13, 4. 87-101.

Vovin Alexander (2020) *A descriptive and comparative grammar of Western old Japanese volume 1*, Brill

横山晶子(2018)『琉球沖永良部国頭方言の文法』博士論文、一橋大学.

# 謝辞

- 調査に協力した方々にお礼申し上げます
- 本研究は以下の支援を受けている

若手研究「日琉諸語の手法・程度・質を表す指示語に関する通言語・通方言的研究研究代表者」代表者 Carlino Salvatore  
25K16266